

緊急事態宣言 影響大きく

五ヶ瀬スキー場

修学旅行 多くがキャンセル 19小中高 検温、消毒 屋内外で感染防止対策



インストラクターに教わりながらスキーを体験する安久小の児童（19日）



コロナリポート

五ヶ瀬ハイランドスキー場は昨年12月25日の今季オープン以来、同感染

五ヶ瀬町鞍馬の回坂山（標高1684メートル）にあり、雄大な景色とともにスキーやスノーボードを楽しむ五ヶ瀬ハイランドスキー場。南国、宮崎でウィンタースポーツを体験できる場所として県内外から多くの人が訪れるが、屋外施設の同スキー場にも新型コロナウイルス感染症の影響が及んでいる。

症対策として場内16カ所に検温や手指消毒する場所を設置。レストランのテーブルにパーティションを置いたり、シャトルバスなどの換気を行って、矢野支配人（58）によると来場者からこれなら安心して来られる」といった声があったという。

また、旅行社と連携して大人数でなく家族など大人数を対象にしたマイカーランを初めてつくった。

しかし、本県独自の緊急事態宣言が1月7日、熊本県独自の宣言が同

19日、都城市から小学生6年生39人がスキー体験

そんな中、同感染症拡大の影響を受けて、修学旅行先を変えた都城市の安久小学校（通称鮫之校）の6年生39人が19日、同スキー場でスキーを体験した。

同校は5月に鹿児島県への修学旅行を予定していたが、同感染症拡大を受けて、五ヶ瀬町への修

14日に発令。今季、県外3校を含む19小中高校約2000人が修学旅行で同スキー場を訪れる予定だったが多くがキャンセルになった。

同スキー場の来場者は、約8割を本県と熊本県から占める。オープン56日目の今月18日時点の来場者数は1万2418人。過去最低だった昨年（2万1442人）の同時期より約4%少ないなど大きな影響を受けた。矢野支配人は「宣言がダブルで来たのが大きい」と話した。

富岡校長は児童が滑る様子を見ながら「子どもたちにとっては一生に一度の小学校の修学旅行。学校周辺で雪が積もるとは少ないので、子どもたちは雪に感動していました」と話した。

初めてスキーを体験した伊地知咲姫さん（12）は「最初はブーツが重かったけれど、だんだんうまくなってきた。滑るようになってうれしかった。もっと滑ってみたい」と笑顔で話した。

同スキー場には今月、これまでに同校を含め2校約70人が修学旅行で訪れている。今後22日と25日に白南町から合計2小学校約1000人が訪れる予定。

今季は雪の質量とも良好

営業は3月7日まで 今後に期待

暗い話題だったわけてはない。暖冬の影響を受けた昨季は雨などによるゲレンデ不良による臨時休業が6日あったが、今季は今月10日時点でゲレンデ不良での臨時休業は1日にすぎた。

矢野支配人は「昨年、一昨年の雪の質、量ともに良い」と話す。

また、今月7日に本県独自の緊急事態宣言が終